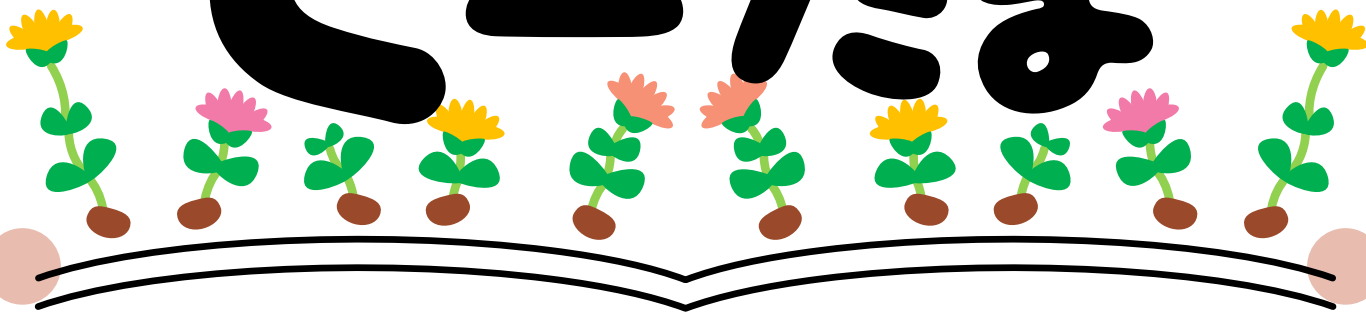


2025年版  
中学生

2025年1月~12月に発行された本の中から  
とくにおすすめの本を紹介します

ビーだまのようにキラリと光る一冊を

# ビーだま



ブックリスト「中学生」2025年版 No.49

【編集・発行】

富山市立図書館 富山市西町5番1号/TEL 076-461-3200  
令和8年4月23日発行(年1回発行)



## ぼくたちの卒業写真

天川栄人／作 くまおり純／絵 文研出版

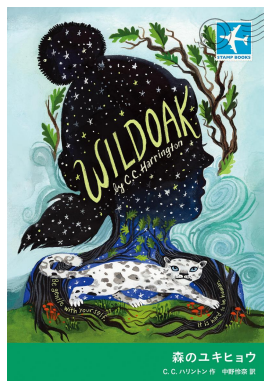


中学3年生の蔵木<sup>くらぎ</sup>は、骨折したカメラマンの父に代わり、卒業アルバム用の個人写真撮影を任された。同級生の星野<sup>ほしの</sup>の提案で、写真は好きな服や場所で自由に撮ることに決まる。

写真の腕はプロ並みだが、人付き合いは苦手な蔵木。同級生たちの「その人らしい」姿を、なかなか上手く引き出せない。次第に写真にかける思いが変わる中、蔵木はなぜ星野が自由な写真にこだわったのか、その理由を知る。

# 森のユキヒョウ

C.C.ハリントン／作 中野怜奈／訳 岩波書店



吃音<sup>きつおん</sup>があり、人と話すと言葉がつかえてしまうマギー。数週間を祖父の家で過ごすことになったマギーは、森の中で罾<sup>わな</sup>にかかった動物を助ける。それは、人間にペットとして飼われ、捨てられたユキヒョウのランパスだった。

マギーはこっそりランパスの世話をするが、銅の採掘のために森が切り開かれはじめる。住処をなくしたランパスは、村で目撃されるようになり、駆除すべきだという声が挙がる。



## やなやつ改造計画

吉野万理子／著 あすなろ書房

政治家に興味を持った光也<sup>みつや</sup>は、選挙の勉強として生徒会長に立候補することに決める。しかし友人に打ち明けると、「やなやつ偏差値60」の光也では無理だと笑われる。生徒会長は、みんなに好かれるいい人が選ばれる、人気投票だというのだ。

選挙で勝ち抜くために、友人2人と選挙対策委員会を立ち上げた光也は、「いいやつ」の研究を始める。



## 君の火がゆらめいている

落合由佳／作 講談社



葉澄<sup>はすみ</sup>の双子の姉・菜々実<sup>ななみ</sup>には、知的障害がある。菜々実のことを大切な家族と思いながらも、どうしても菜々実が優先になる生活が、不公平だと葉澄は感じていた。

葉澄は、菜々実を理由に友達から仲間外れにされたことをきっかけに、自分が「きょうだい児」と呼ばれる存在であると知る。そして、自分と同じ境遇の人に会いたいという思いから、両親に「きょうだい会」に参加したいと打ち明けた。

# アリーチェと魔法の書

長谷川まりる／作 松井あやか／絵 静山社



魔法の本を管理する「守り手の一族」に生まれたアリーチェ。守り手の一族は魔法族ではないため、魔法の本が白紙にしか見えない。しかし、魔法使いに平等に本を見せるという役目があり、魔法族から守られていた。

守り手を継ぐ儀式の日、アリーチェは自分に危険がせまっているという予言の手紙を受け取る。不安の中で儀式を受けると、魔法の本にびっしりと文字が書かれているのが見えた。



## ラント！

クレイグ・シルビー／作 田中奈津子／訳 静山社

アニーと犬のラントが暮らす町は、1年以上も雨が降らず、日照りが続いている。その上、悪い弁護士が川をせき止めて土地を買収しており、さびれる一方だ。アニーは少しでも家計を助けようと、賢くすばやいらんととともに犬の障害物レースに参加し、優勝賞金を稼ごうとする。

しかしラントには、アニー以外の人に見られていると、一歩も動かないという問題があった。



## 閉じこめられた「森の人」

ミッシェル・カダルスマン／著 村上利佳／訳 あすなる書房

マリアは、オランウータン保護のため、校内で政府を批判する活動を行ったとして停学処分になる。担任の先生までも停職に追いやってしまい、マリアは正義感と罪悪感の間で揺れ動く。

一方アリは、マリアからオランウータン保護の嘆願書を渡される。アリが働くレストランには、狭いケージで見世物として飼われるオランウータンがいた。嘆願書を読んだアリは、助けを求め、マリアに一通のメールを送る。



# ナビエ・ストークス方程式と僕らの最終定理

コ・ジョンウク／作 岡崎暢子／訳 町田メロメ／絵 東京ニュース通信社



父の失業により録山<sup>ノクサン</sup>に引っ越したジュンピョは、転校先で数学オタクと呼ばれるジョンシクと親しくなる。ジョンシクは、休み時間にも計算を解くような変わり者だった。

引っ越しから1ヶ月も経たず、ジュンピョの両親が始めた学習塾が潰れ、母が家を出てしまう。気力をなくすジュンピョに、ジョンシクは数学を駆使して、懸賞金がかけられた寺の文化財を見つけ出そうと持ちかけた。



## チャリを盗んで、夜明け

黒川裕子／著 講談社

中学3年生の巧海<sup>たくみ</sup>は、ケガで職を失い、酒とギャンブルに溺れる父との2人暮らしだ。父の障害年金だけでは生活ができず、仲間とともに万引きや窃盗をして食いつないでいる。

自転車の窃盗をした帰りの朝、巧海は不意にピアノの音を耳にする。引き寄せられるように音の出どころを探した先には、トラックの荷台に乗ったピアノと、そのそばに座る男がいた。



## そして砂漠は消える

マリー・パヴレンコ／作 河野万里子／訳 静山社

どこまでも砂漠が広がり、獣が周囲をうろつく中を、キャンプで暮らす部族。部族のハンターたちは、どこにあるかもわからない木を「狩る」ために遠征する。木から作った商品を、食料や水と交換し、部族は生き延びているのだ。

ハンターに憧れるサマアは、1人でキャンプを抜け出しハンターたちを追うが、見失い遭難してしまう。獣に襲われ穴に落ちたサマアは、はじめて地面に立つ木を目にした。

